

山陽小野田市文化芸術振興ビジョン

前期アクションプラン

2022~2026

(案)

目 次

作 成 中

1. アクションプランの策定にあたって

作成中

2. アクションプランが目指すもの

作成中

3. アクションプランの重点プロジェクト

基本目標① すべての市民が文化芸術を鑑賞・体験できる環境をつくります

●重点プロジェクト①ー1「文化芸術活動の活性化」

日常の身近なところに文化芸術がある環境づくりに努めていきます。市民一人一人の文化習慣を高め、地域の文化力向上を目指すためにも、定期的かつ継続的な芸術公演や展示の提供を、多彩なアウトリーチ事業の中でも展開していきます。

また、自己実現の一環としての発表の場の提供だけでなく、リスペクトの対象となり得るレベルのものを企画・提供していきます。

アウトリーチ事業	身近な場所で誰でも参加しやすい文化芸術の鑑賞・体験機会が生まれるよう、地域交流センターや学校、保育所、福祉・教育施設や民間施設等でアウトリーチ事業を実施する。
----------	---

○主要事業

取組事項	内容等
民間施設を含むアウトリーチ事業の展開	公共施設だけでなく、会場となり得る民間施設（店舗等）も含め、市全体の事業展開を企画し、可能な限り実施していく。
様々な施設でのガラスアート作品の展示促進	本市が所有しているガラスアート作品を公共施設はもちろん、民間施設等も含めた様々な場所に展示することで、身近に文化芸術に触れる機会の充実を図る。
子どもを対象とした事業の拡大	本市の特色の一つである子ども文化ふれあい事業をはじめとする事業のさらなる展開に努める。
各種イベント等とのコラボレーションの取組	市内で開催される様々なイベント等とのコラボに努め、鑑賞機会の相乗効果を高める。

	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)
文化芸術活動の活性化▶
アウトリーチ事業	企画・実施▶

●重点プロジェクト①-2「公共文化ホール等での鑑賞機会の創出」

企画力を高めながら、市民が来館し、本物の文化芸術を体験・鑑賞する機会を提供します。また、関連施設を活用した企画等についても、施設活用の可能性を多角的に検討し、文化芸術を身近に感じられる環境づくりに努めます。

文化芸術施設における コンスタントな事業展開	本物の文化芸術をより身近に感じるために、市民に魅力ある質の高い文化芸術事業を提供する。
他自治体（財団）との 連携事業	近隣他市町（財団等を含む）と連携しながら、本市での芸術公演の開催等につなげる。
小・中学生の鑑賞事業	学校との連携や伝統文化も取り入れるなど、小・中学生に本物の文化芸術に触れる機会を提供することで、子どもの持つ無限の可能性を開く契機（動機付け）とする。

○主要事業

取組事項	内容等
定期的な芸術公演や展示会の開催	魅力ある質の高い芸術公演や展示会を、定期的で開催していく。
関連会議への参加と積極的な連携	近隣組織との連携や情報共有に努め、共同開催を含めて、魅力的な公演等の開催に努める。
子どもを対象とした事業の拡大 （再掲）	本市の特色の一つである子ども文化ふれあい事業をはじめとする事業のさらなる展開に努める。

	R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)
公共文化ホール 等での鑑賞機会 の創出					

●重点プロジェクト①ー3「文化芸術の体験機会の創出」

市民が気軽に文化芸術に触れることができる機会を創出します。また、未来を担う子ども達が心身ともに成長し、思いやりの心や豊かな人間性を育むため、学校を通して、地域の文化や芸術を活かした体験学習の充実を図ります。

文化芸術の実践の受け皿づくり	文化協会をはじめとする関係者による受け皿づくりや、様々なツールも活用した相談・助言体制を構築していく。
学校における体験学習の充実	ガラス体験教室（きららガラス未来館主催）や、かるた教室など本市の文化を体験できる機会を継続して実施する。

○主要事業

取組事項	内容等
相談助言体制の構築	文化芸術の実践にあたっての相談助言体制を、芸術文化アドバイザーや文化協会をはじめとする関係者と連携し、その仕組みを構築する。
学校における体験学習の充実	ガラスアートやかるたに触れる機会をより充実させるため、児童生徒に配布されているタブレット端末の有効活用について検討する。

	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)
相談助言体制の構築	文化協会との協議▶				
タブレット端末の活用	企画・調整▶				

●重点プロジェクト①-4「情報提供」

より効果的なメディアやツールを活用した情報発信を行い、市内外のより多くの住民に対して、鑑賞機会の充実につながる全ての情報（民間実施を含む）をタイムリーに提供していきます。

SNS活用を含めた情報発信体制の構築	多彩な情報伝達ツールを活用し、多様な情報発信を行う管理・運用体制を構築する。
市内イベント情報の提供	情報提供者との双方向となる連携体制を構築し、市内（外）での最新情報を提供する。

○主要事業

取組事項	内容等
情報発信の管理運営体制の構築	文化芸術に関する市内情報の集約と提供体制を構築するため、有効なツールとしてのSNS（インスタグラム等）を活用し、情報提供者と協力した発信に努める。
受け手に有益な情報の多彩な提供	数か月先も含めた最新の情報を常に更新し、市民の鑑賞機会の充実に努める。また、FMラジオのさらなる活用や多彩な掲出、さらに文化芸術に特化したSNS等の作成についても検討していく。

	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)
情報提供の充実 (SNS等各種メディアの活用)	情報提供体制の構築				

----->

基本目標② 文化芸術のつくり手の活動を支えます

●重点プロジェクト②-1 「文化の多様な担い手の育成支援」

(1) 市民の文化芸術活動支援

文化協会とのさらなる連携や民間との情報共有等を通して、市民による文化芸術活動が活発となるよう、市民が主役となる文化芸術活動の発表機会の提供・支援を行います。

市民の文化発表の場の充実	様々な個人・団体等の活動が連携し情報共有できる仕組みをつくり、単体ではなく共同で開催するなど、創意工夫することにより文化発表の場を充実させていく。
--------------	---

○主要事業

取組事項	内容等
市民文化祭等の充実	長年にわたって開催されている総合的な文化イベントだが、単なる発表の場としてだけでなく、様々な個人・団体等が連携し相乗効果をあげることで集客増を図り、芸術文化に関心のある多くの市民の鑑賞機会の創出に加え、エンターテインメントの場としての充実に努める。

	R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)
市民の文化芸術活動支援▶				

(2) 若手芸術家の活動支援

市内の芸術家等を志す人材の育成を行い、次世代の文化芸術の担い手を育成します。

文化芸術の担い手支援の検討	まずは本市の実情を把握するとともに、他自治体の事例等を調査研究し、育成・支援に努める。
---------------	---

○主要事業

取組事項	内容等
担い手の育成・支援の検討	市内で活動する次代の担い手に対して、その支援策について他自治体の取組等を調査し、本市に適した手法を検討し、その実施に努める。

	R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)
若手芸術家の活動支援	調査・検討▶			

(3) 芸術創造活動への支援

市民や民間団体等の文化芸術活動をまちづくりに活かすために、市の文化芸術の振興を目的とした活動がより発展的・継続的に行えるための支援を検討します。

芸術創造活動への支援検討	他自治体の事例を調査研究し、本市の実情に沿った支援を検討する。
--------------	---------------------------------

○主要事業

取組事項	内容等
芸術振興に資する活動に対する支援の検討	活動を活発させるための仕組みについて、他自治体の補助制度等を調査し、本市に適した手法を検討の上、その実施に努める。

	R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)
芸術創造活動への支援検討	調査・検討	▶		

●重点プロジェクト②-3「ネットワーク形成の推進」

文化芸術活動団体は単独で活動することが多いので、サロン等の交流の場を設けるなど、団体同士のネットワーク形成を促進することにより、ジャンルを越えた連携、イベント同士のコラボレーションなど、新規事業や他分野イベントにおける活用を図りながら、新しい文化芸術活動を創出していきます。

データベースの構築と拡大	市内の文化芸術団体や施設・設備等の情報集約を進め、今後さまざまな事業に活用できるよう情報を整理する必要がある。市内の活動家、活動団体、活動内容や活用できる施設等を掘り起し、その収集に努めながら、交流の場を提供していく。
交流の場の創設	様々な活動家や活動団体の情報共有の場を設け、新たな取組みを検討していく。
他自治体（財団含む）との連携	会議等を通じて、他自治体（財団含む）との情報共有に努め、共同開催等の施設活用を進める。

○主要事業

取組事項	内容等
文化芸術データベースの構築と活用	市内外の文化芸術活動に関わる様々な情報を集約し、効率的に関連させるためのデータベース等の作成を検討し、その活用を通して文化振興活動を活性化していく。
活動者・団体によるワークショップの開催	異なる分野の活動者・団体による交流や意見交換を通じて、新たな企画の検討と相互作用による活動の活性化を図る。
他自治体（財団含む）との連携強化	他の自治体や財団等との連携を強め情報共有に努め、共同事業の実施に努める。

	R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)
データベース構築（随時追加）		企画・構築▶
ワークショップの開催	企画▶
他自治体（財団含む）との連携強化▶

基本目標③ 文化芸術を活用したまちづくりを推進します

●重点プロジェクト③-1 「文化芸術の他分野への活用」

文化芸術が持つ力を子育て、福祉など他分野へ活用し、市民の豊かな心の醸成に貢献していきます。各分野での調査・研究を実施すると共に、関係機関との連携を図りながら、プロジェクトを推進するための体制・環境を整えます。

高齢者施設文化芸術ワークショップの開催	市内の高齢者を対象に、コーディネーターや福祉分野での活動に長けたアーティストの人材育成を行いながら、施設側の担当者等と協働でワークショップを開催する。
子育て文化芸術ワークショップの開催	自主文化事業「ファミリーコンサート」の内容拡充や文化芸術を活かした子育て支援につながるワークショップを開催し、その充実に努める。
障がい者を対象とした文化芸術活動の調査・研究	市内の障がい者を対象に、その障がいの程度に応じた文化芸術活動を推進するための環境整備や取組について調査・研究を行う。その結果等を受け、関係機関と連携し、障がい者の文化芸術活動機会を創出する。

○主要事業

取組事項	内容等
高齢者施設関係者とのワークショップ開催	高齢者関連施設とのワークショップ等を通じて、高齢者にとっての身近な文化芸術環境の整備に努めるとともに、実践活動につなげることでスマイルエイジングの充実を促す。
子育て関係者とのワークショップ開催と実施事業の充実	既存の「0歳からのファミリーコンサート」「ファミリーティータイムコンサート」の充実とあわせ、関係者とのワークショップ等を通じて、さらなる事業展開の検討を進める。
障がい者の活動機会創出に向けた検討	環境整備や取組についての調査・研究を進め、関係者とも協議し、障がい者の文化芸術活動の実践や機会創出に向けた検討を進める。

	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)
文化芸術の他分野への活用▶				
高齢者・障がい者関連	企画	ワークショップ▶		

●重点プロジェクト③-2「市の魅力となる文化芸術の創出」

文化芸術活動における各関係者との十分な連携をさらに深めながら、本市の魅力創出に向けた展開を図っていきます。また、そのほかにも本市の特性を活かしたイベントの取組についても検討します。

ガラス文化の振興	現代ガラス展のさらなる充実を図りながら、ブランド化等の取組も通して、市民意識の浸透に努める。
かるた文化の振興	学校や地域での取組を通して、かるた文化の普及のみならず、かるた人口を増やすための取組として和歌の内容を味わう取組なども進めていく。
独自事業の展開	ピアノマラソンをはじめとする独自の自主事業をさらに充実させながら、文化芸術の振興に努める。
地域文化（伝統文化）次世代継承事業	各地区に継承されている伝統文化について、その把握に努め、伝統文化体験プログラム等の伝統文化次世代継承事業も検討しながら、次世代の継承へつなげていく。

○主要事業

取組事項	内容等
現代ガラス展の開催と巡回展示、並びにブランド化の推進	現代ガラス展の開催と市外県外での拡充に取組む。また、市が所有しているガラスアート作品を活用した市内各所（民間企業含む）での展示や関連事業（スタンプラリー等）を展開していく。
かるた教室等の実施とさらなる展開	小・中学校で実施しているかるた教室の継続的な開催や、小・中学校でのかるたクラブ創設やタブレット端末を活用した取組に努める。
独自自主事業の充実	本市独自事業であるピアノマラソンやアラ還コンサート、アーティストBOX等について、さらなる充実に努める。
地域（伝統）文化の継承	市内各地域に伝承されている伝統文化（行事）について継承していけるよう、関係部署との協力関係を維持する。

	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)
市の魅力となる文化芸術の創出	現代ガラス展▶
地域文化の継承▶

基本目標④ 文化芸術に関する総合的な仕組をつくります

●重点プロジェクト④-1 「文化拠点の機能強化」

文化会館においては、本市の「文化芸術の中核拠点」として様々な機能や役割を更に高めながら、文化芸術のプラットフォームとしての位置づけを明確化すると同時に、早期改修や文化交流のための空間づくりを進めていきます。

文化会館	これまで部分的な改修のみであったため、建物全体の老朽化が著しく進み、不具合が多く生じている。機能強化のための施設改修検討と並行しながら、躯体の健全化に早急に取り組む。 また、単なるハコモノとしての貸館中心から、主体的な事業展開の場としての施設管理運営を進めていく。
市民館	全市的には、芸術公演の場としての文化ホールと、主に展示会場としての体育ホールを有効に活用しながら、市域全体の人口バランスも考慮した事業展開に取り組んでいく。
市民ギャラリー	市内の公共空間を活用しての展示とあわせて、常設的に活用できるギャラリー空間の確保に努め、文化の担い手の発表の場かつ市民にとって身近な鑑賞機会の場を形成していく。

○主要事業

取組事項	内容等
文化会館の改修整備	雨漏りを含めた老朽化への早期対応と、年次的な備品や設備更新を計画的に進めていく。また、本市における文化芸術の拠点として、公演時の集客だけでなく日常的に人々が関心を持って集える機能を付加していく。
ギャラリー空間の確保と活用	公共施設だけでなく、民間施設等も含めた様々な空間のギャラリー利用を検討し、身近に文化芸術が感じられる環境づくりに努める。

	R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)
文化会館の改修整備	調査	設計	施工	▶
ギャラリー空間の確保と活用	調査・検討▶

●重点プロジェクト④-2「文化協会との連携」

中間支援的機能をもつ推進組織の検討とあわせて、個人・団体支援を中心とした文化協会の役割の明確化と市との多様な連携を推進していきます。

文化協会との連携・協力体制の構築	相互に実施する事業が、本市の文化芸術の振興により効果的な内容となるよう、連携・協力体制を強化していく。
------------------	---

○主要事業

取組事項	内容等
文化協会との連携・協力体制の構築	文化協会の活性化を図るため、個人会員へのさらなる情報提供の支援と団体会員への活動支援に努めるとともに、会員間の交流が生まれるような仕組みづくりの構築を支援していく。

	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)
文化協会との連携	協力・支援▶				

●重点プロジェクト④-3「学校・地域との連携」

これまでのアウトリーチ事業をさらに各方面に広げ、様々な団体等とも連携を図り、関連性を深めながら、展開していきます。

大学との協働・連携	市の文化芸術活動を、山口東京理科大学と連携し、協働して取り組むとともに、文化芸術活動を通して学生の創造性や表現力を高めるための取組を検討していく。
幼稚園、保育所、小学校、中学校、高校等との連携	幼稚園、保育所、小・中学校や高校等でのアウトリーチ事業を積極的に実施していくほか、演者としての出演等により相互の連携を深めていく。
支える市民の育成	地域交流センターをはじめとする公共空間でのアウトリーチ事業を展開するにあたって、関係団体との連携を通して事業を支える市民（組織）の形成を図る。

○主要事業

取組事項	内容等
子ども達への鑑賞機会の拡大	従来の小・中学校に加え、保育所や幼稚園、高校、大学でのアウトリーチを含めた事業展開を拡充していく。
大学との文化芸術活動の協働	山口東京理科大学との連携・協働についての検討を進め、「協創」につながる取組につなげていく。
支える市民の育成	文化芸術に関する市民の理解を深め、活動を支える市民組織の形成を図る。

	R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)
子ども達への鑑賞機会の拡大	企画・実施▶				
大学との協働	検討・協議▶				

●重点プロジェクト④－４「ビジョン検証と適正な評価」

客観的・多角的な視点からの個々のプロジェクトの検証・評価、さらに、その結果を踏まえ、必要に応じた修正を行いながら、次期ビジョンの策定につなげていく。

検証・評価委員会	文化によるまちづくり委員会による定時評価を通じた検証を通して、本市の文化芸術振興の取組の効果を検証していく。
----------	--

○主要事業

取組事項	内容等
文化によるまちづくり委員会による定時評価の実施	本ビジョンに掲げた基本目標の達成状況等について、委員会による定時的な検証・評価を行い、PDCAサイクルに沿って事業を推進していく。
文化芸術に特化した評価基準の策定と活用	他の事例等も参考にした上で、独自の評価軸を検討し、事業推進に活用していく。

	R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)
定時評価▶				
独自評価	評価軸の調査・ 検討▶			